

浜松市立平山小学校 氏名 小田真弓

1 テーマ

子供の思考に沿った複式授業の指導について（2・3学年 算数科）

2 テーマ設定の理由または、課題

本年度より複式授業を初めて行います。2ヶ月やってみて、わたりのやり方を探っているところです。今のところ、自分の考えをノートに書く時や、交流をしているときに、隣の学年に移るようにしています。しかし、そうすると、子供たちが交流中どんな思考をしていたか、また、自分の考えが全くもてないでいる子供への支援がそのタイミングで行えないなど、もどかしさを感じています。

そのため、もっと子供の思考に寄り添った複式の授業を行うためのスキルを学びたいと思い、このテーマにしました。

3 実践内容

- ・教師がいなくても集中して取り組むことができるよう、ホワイトボードを使って集中できるようにしたり、ペアで課題を解決させるような場面を設定したり、課題の出方を工夫したりしました。
- ・支援員との情報共有をまめにするようにしました。授業の流れを伝えたり、子供たちだけで考えさせたいから見守るだけにしてほしいなど、こちらの要望を伝えたりするようにしました。また、授業の最後は、教師が見取れなかった子供の表れを教えてもらうなど情報を共有し、次時に向けて、お互いが共通意識をもつようにしました。

4 成果と課題

新たな課題に一人で向かうと集中力が持続しない子供が多くいました。そのため、一人学びの時間を子供たちで決めさせ、すぐにペア交流に入ったり、状況によっては最初からペアで考えるようにさせたりして、授業の中で達成感をたくさん実感できるようにしました。そうすると、教師が近くにいらなくても、子供たちだけでどんどん意見を出し合って解決しようと取り組む姿がよく見られるようになりました。

本校は、来年度複式学級が1つ増えることから、複式でない学年でも複式を意識した授業作りを行うことが校内研修の中心になりました。提案授業より、教師がいなくても子供たちで学習が進められるよう、単元や本時の導入で子供たちが的確に見通しをもてるような工夫が大切であるということ、全体交流は子供たちだけで展開させていき課題解決できるよう、全体交流の基本的な進め方を子供に提示して授業をしていくことの2つが課題であるということでした。このような授業作りを今後の課題として取り組んでいきます。